



ご取材のお願い

和歌山県串本のサンゴ群集はいつから生息を開始した？
—掘削調査からサンゴ群集の形成開始時期と形成過程を復元—

和歌山県立南紀熊野ジオパークセンター、和歌山大学、東北大学、国立環境研究所、東京大学からなる研究グループは、和歌山県串本沿岸のサンゴ群集の形成開始時期と形成過程を復元しました。古くから串本のサンゴ群集の調査は行われてきましたが、いつからサンゴ群集が生息を開始したのか、どのような群集で形成されていたのか、これまで明らかではありませんでした。本研究で過去のサンゴ群集の試料を観察した結果、サンゴの生息開始時期が約 7300 年前と初めて明らかとなりました。この時期は黒潮の流路が南から徐々に北上し串本町沿岸に接近した頃であり、黒潮によって串本町沿岸がサンゴの生息に適した海水温になったことや、サンゴの卵や幼生が運搬されてサンゴが新規に加入したと考えられます。現在の串本町沿岸においてはミドリイシ属が優占群集ですが、約 7300 年前から少なくとも約 3700 年前まではサザナミサンゴ科が優占群集であったことも明らかとなりました。熱帯から亜熱帯域では高水温によるサンゴの白化が頻発化していますが、温帯域は海水温が低いいため、サンゴなどの生物の避難地として注目されています。本研究成果は、将来の気候変動下におけるサンゴ群集の応答を予測する上で基礎的な知見になると期待されます。この成果は令和 7 年 2 月 11 日の Marine Geology 誌（電子版）に掲載されました。

本件についてのお問い合わせ

国立大学法人和歌山大学

担当：災害科学・レジリエンス共創センター

木下 顕次

〒640-8510 和歌山市栄谷930

電話：073-457-4558 FAX：

メール：saigai@ml.wakayama-u.ac.jp